

道民の森での宿泊学習の予約をありがとうございます。

新型コロナウイルス感染防止の対応では日頃から子どもや先生の健康管理を徹底されていることと思います。私たちTECも今年の「TECワンダースクールプログラム」の対応を検討し、「TECワンダースクール新型コロナウイルス感染防止ガイドライン（TECガイドライン）」を作成しました。

TECガイドラインの目的は「TECワンダースクールプログラム」を実施する上で、子どもたち、先生、スタッフと宿泊学習に関わる誰もが感染しないということを基本に作りました。スタッフから子どもたちや先生へ、子どもたちや先生からスタッフへの感染をどのように防ぐのか。場面に分けて対策を行うことといたしました。

しかし、新型コロナウイルスは無症状での感染ケースがあり、いくらガイドラインに定めた対策をしても防げないケースも出てくる可能性があります。もちろん、ガイドライン通りの対策の上でプログラムを実施しますが、それでもプログラムの参加による感染が出た場合もTECでは責任をおいかねますので、あくまでも学校の責任でプログラムの申し込みをご検討ください。その上で、学校の方でも子どもたちや先生の健康管理の徹底をお願いいたします。

1 実施前

道民の森が所在する当別町（スタッフは全員が当別町在住です）、及び、参加される学校のある地域、子どもたちや先生の居住地においてそれぞれの自治体から外出自粛要請や他地域への移動制限が出ていないことや、実施日からさかのぼって2週間以内に新たな感染者が発生し、市中感染率が増加してきた場合、及び、感染が引き続き拡大している地域や国への訪問された方がおられる場合、実施の判断を管理事務所と相談しながら進めさせてください。直前に状況が変わった場合、プログラムが実施できない場合がありますのでご了承ください。

1-1 実施前（スタッフの対応）

- スタッフは2週間前から体温を記録し、体調管理に万全を期します。
- スタッフが実施日の2週間前から発熱（37.5度以上、または平熱比+1度以上）や息苦しさ（呼吸困難）、咳、喉の痛み、だるさ（倦怠感）、頭痛、腹痛（下痢）、体調不良等の諸症がある場合はプログラムに関わりません。
- スタッフが濃厚接触者の疑いがある場合はプログラムに関わりません。
- 上記2つのケースの場合、プログラムが変更となる場合がありますのであらかじめご了承ください。

1-2 実施前（先生や生徒）

- 先生や生徒が実施日の2週間前から発熱（37.5度以上、または平熱比+1度以上）や息苦しさ（呼吸困難）、咳、喉の痛み、だるさ（倦怠感）、頭痛、腹痛（下痢）、体調不良等の諸症がある場合はプログラムに参加できません。

2 実施中

- プログラム実施前の集合は密集を避けるために全員で集まらず、プログラム毎での集合をお願いします。
- 集合前にはトイレを済ませ、石けんでの手洗い・うがいをお願いします。手洗い後、トイレのジェットタオルは使用せず、各自のハンカチを使用してください。また、トイレや手洗いをする場所に人が密集しますので、必ず担当の先生が人数制限をしてください。
- プログラム実施中はマスクを持参し、会話をするときは真正面を向かず、マスクの着用をお願いします。
- スタッフは実施中はマスクを着用して指導します。さらに、飛沫が飛ばないようにハンドマイクを使って説明します。
- プログラム中（休憩中も含みます）は人と人の距離を2mとるようにお願いします。
- 筆記用具、軍手、タオルなどは各自でご用意ください。
- 飲み物は必ず各自の水筒を持参し、量も余裕を持って用意してください。特に、気温の高いときは頻繁な水分補給をお願いします。
- ケガが発生した場合、TECでも応急処置のトレーニングをしていますが、体制も含めてマニュアルの作成をお願いします。
- プログラム終了後は石けんでの手洗いをお願いします。
- 宿泊学習のスケジュールは例年以上に余裕を持って計画してください。手洗いやトイレ、プログラムの準備と時間がかかるかと思います。

3 実施プログラム

- 今年実施できるTECワンダースクールプログラム

「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』（文部科学省・5月22日）に沿ってTECワンダースクールプログラムを見直してみると、以下の3つになってしまいました。そこで、新たにチャレンジ25という25個のアクティビティーを考えました。

1) 森でビンゴ

ビンゴカードは事前に各自で作って持って来てください。リーダーはコース案内をします。自分で対象物を見つけてチェックしてください。

2) 森の俳句ハイク

筆記用具は各自でご用意ください。また、俳句の記入には宿泊学習のしおりに俳句を書き込むページをお作りください。

3) 森の長老ミズナラ

ミズナラの木までの往復ハイクになります。途中、急な上り坂もありますので、マスクは着用はせずに、互いの距離を空けて歩きます。

4) 森を体験！ ワンダースクールチャレンジ25

「やってみよう」という一人ひとりの主体的な気持ちから始まるプログラムです。終わった後に振り返りを行います。学校に帰ってからの発展学習につなげることができます。また、25の項目を事前学習として、自分たちで作ってみるとさらに主体的な宿泊学習になると思います。

5) 雨のプログラム

「森は、雨が降るととりわけ生き生きとして鮮やかに美しくなります。」とレイチェルカーソンは著書「センス・オブ・ワンダー」に書きました。雨具（傘でも）を用意して「森でビンゴ」や「森の俳句ハイク」「森を体験！ ワンダースクールチャレンジ25」はいかがでしょう？ 雨が強い時は室内で「ヒグマと北海道の環境」と題してビデオを見ながらレクチャーも用意しました。

TECワンダースクールチャレンジ25

「面白そう！」「やってみよう」と思う課題を以下の名から見つけてください。「TECワンダースクールチャレンジ25」は密接や密集を避けるために一人でできるプログラムです。一つのことをじっくり、深く探求してみてもいいし、いくつかをやってみてビンゴを作ってみてもいいよ。やってみたこと、どんなことができたか、工夫したこと、疑問に思ったこと、などをやってみたことは後で報告し

5つの形の違う葉っぱを見つけてこよう	1本の木をスケッチしてみよう	左右対称のものを5つ探そう	石を10コ積んでみよう	5種類の葉っぱをスケッチしてみよう
自然の中からパターンを探してこよう	自然の中にあるもので〇〇ランキング10を作ろう	雲のスケッチをしてみよう	自分の身長と同じ高さの木を探してみよう	木の高さを測ってみよう
好きなものをスケッチしてみよう	良いにおいベスト5を探そう	いくつかの石を手を持ち音を出そう。	じかんをはかる道具を作ろう	枝でピラミッドを作ろう
カッコ良い形のものを探してこよう	穴を5個みつけよう	3種類の鳥の声を聞いてみよう	自分の身に着けているものと同じ色のものを3つ探してみよう！	自分の背丈と同じ高さの植物や木の枝を見つけてよう！
自分で考えてやってみよう	自然のものを使って似顔絵をつくってみよう	風の力で葉っぱを遠くまで飛ばしてみよう	抱きついて、手の先がくっつく大きさの木を見つけよう	森の中にある擬音を探してみよう

- プログラムは宿泊学習1日目の午前1回、午後1回となります。2日目は午前10時に道の森を退出となりますのでプログラムは実施できません。
- グループあたりの参加人数を通常は15人としていますが、密集や密接を回避するために50%の7人から8人までとします。また、TECのスタッフも限られますので、ワンダースクールプログラム以外のプログラムに振り分けての実施となります。
- プログラムは屋外で行うもので、尚且つ互いの距離が2mを保てるプログラムに限ります。
- プログラムには必ず先生が付き添い、途中で体調が悪くなった場合の対応をお願いします。
- 「葉っぱのスタンプ図鑑作り」「生き物を探そう」「林業体験」「お箸作り」「水性生物観察」といった道具を共有したりグループで観察するプログラムは行いません。
- 「グループワーク」などの触れあい系のプログラムは行いません。
- 「ナイトプログラム」「炊飯を伴うプログラム」は行いません。

4 その他

- 重症化のリスクのある先生や生徒がおられる場合は十分な対応計画の作成をお願いします、私たちスタッフとの情報共有をお願いします。
- プログラム途中で体調が悪くなり、感染疑いの症状が現れたときは、直ちにプログラムを中止して本部に戻り、管理事務所と連携を取っての対応をお願いします。
- 救急要請が必要になったときは、管理事務所からお送りしているマニュアルを参照し、マニュアルをお作りください。
- 9月はスズメバチの巣作りの季節です。十分に注意して活動してください。
- ツタウルシが紅葉をはじめ、葉っぱが落ちる季節です。落ちた葉っぱはツタウルシとわかりづらく（通常は木に巻き付き、同じところから3枚の葉っぱが出ているという特徴があります。）注意して観察してください。
- 草が茂っているところにはダニが生息しています。プログラム終了後、もしくは入浴時にチェックをしてください。
- 9月はまだ暑い日があります。熱中症には十分注意してください。
- 10月に入ると朝晩はかなり冷えます。中旬を過ぎるとセーターやダウンジャケット、手袋は必需品です。
- 10月の後半になると、時は雪の降ることもあります。車で来られる場合は雪道用のタイヤが必要なこともありますのでご注意ください。

5 最後に

多くの先生方から「子どもたちに自然の中に連れて行ってやりたい。」という思いをお聞きして非常に嬉しく思っています。3ヶ月も続いたStay Home、学校が再開されてからの過密なスケジュールでの授業と、ストレスの多い毎日から、道民の森にお越しいただき、自然の中での宿泊学習を有意義な体験にしていいただければと願っています。例年ですと、宿泊学習では集団宿泊体験や総合的な学習の時間という課題を持ってこられますが、今年はもう一つリラックスという課題もあるかもしれません。どうか例年よりもゆったりと、子どもたち中心のプログラムでお過ごしください。そういう意味からも、今年のプログラムは「TECワウンダースクールチャレンジ25」がお勧めです。子どもたちと同じ目線で、一緒に自然にチャレンジしていただければ、先生にとっても良い時間になることかと思えます。

また、このガイドラインをお読みいただき、ちょっと厳しいかなと思われるかもしれませんが、感染防止を第一に作成していますのでご理解願います。また、学校でもリスクマネジメントの視点でプログラム全体を再点検して今年の宿泊学習の準備をしてください。

リスクマネジメントのポイントは、リスクの評価と対策です。宿泊学習2日間の流れを学校に集合してから学校に帰るまでを詳しくシミュレーションし、場面ごとのリスクの評価と対策を一つ一つ書き出し、ミーティングを重ねながら対策をとってください。今年の宿泊学習はプログラム以上にリスクマネジメントが大切になってきます。

また、今年は例年通りのプログラムを提供できませんが、その中でできること、例年と目的が変わるかもわかりませんが、子どものニーズに合わせたプログラムの計画も必要かと思えます。宿泊学習全体のご相談がございましたらいつでもメールをいただければと思います。余談になりますが、TECの代表の山本は北海道教育大学札幌校で野外教育論の授業を非常勤講師として10年受け持たせていただいています。そのテーマは、宿泊学習の企画（授業案）の作り方と自然体験プログラムの指導方法と教育理論です。また、一昨年、スウェーデンの学校で使われている「野外で算数」というテキストも翻訳して出版しています。お役に立つことがありましたらご連絡ください。

このガイドラインは、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和2年3月28日（令和2年5月4日変更）新型コロナウイルス感染症対策本部決定。以下、「対処方針」という。）を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（2020年5月4日。以下、「提言」という。）において示されたガイドライン作成の求めに応じ、新型コロナウイルス感染予防策として実施すべき基本的事項を整理し、具体的な事例に基づいて作成したもので、「新型コロナウイルス感染症」感染拡大防止のための「北海道」における緊急事態措置（5月15日改訂版）、道立施設の再開に向けた感染防止対策の指針（5月21日）、「新北海道スタイル」安心宣言、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』（文部科学省・5月22日）、アメリカCDC「COVID-19パンデミック期間における青少年プログラムの再開チェック表」などを参考に作成しました。

今後、打ち合わせをしっかりと準備を進めてゆきたいと思っておりますので、できましたらメールなどのオンラインでの打ち合わせができればと思います。以下のメールアドレスにご連絡いただければ幸いです。よろしくお願います。

TECのメールアドレス：tectec_ee@yahoo.co.jp